

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501418		
法人名	有限会社すずらん		
事業所名	グループホーム潮風		
所在地	三重県津市阿漕町津興214番地2		
自己評価作成日	平成21年10月20日	評価結果市町村提出日	平成22年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=2470501418&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 11 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分らしく生活する。こころ通い合う、笑顔あふれる暮らし。オンリーワン支援を目指しています。昔とった杵づかを個性として、大切な過去の貴重な体験や得意を發揮して頂く。自らの役割を持つことにより、達成感や満足感を実感して頂く、自信の回復をする中で大家族の一員としての役割を担って頂き楽しく生活しています。名前は忘れていても、馴染みの顔がそこにあれば、いつもここに安心できる大家族なのです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一歩踏み入れた玄関には地元保育園児が作った孝行伝説の安濃平治の人形が出迎える。地域に密着した事業所である職員の笑顔あふれた姿がある。管理者・職員は人情味があり、利用者の落ち着いた様子に繋がっている。家族の不安のひとつの医療面も協力医との良い関係を作っている。又、オンリーワンの言葉通り業務に流されず一人ひとりの個性に合った支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所者個人の尊厳を第一とする中で、こころ通い合う介護、笑顔あふれる暮らしを大切にしている。おひとり、おひとりの気持ちに寄り添うことで我が家にいるように、ゆったりと過ごして頂いている。	地域の中で寄り添い、通い合う介護・笑顔あふれる暮らしを大切に、管理者と職員は日々話し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方、自治会、子供会、民生委員、保育園、介護施設、病院関係者の方々との交流を通して双方の理解を深めている。地域の中での潮風を認知して頂く中で、お互いが地域力になればと努めている。	自治会へ加入し、地域の一員として根付いている。又、地元保育園児の訪問や園での催しに招かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者を取り巻く環境等について、専門的見地から自治会、民生委員、認知症をかかえる家族等へ働きかけ、介護保険のしくみ、認知症についての理解等学習会を開催するなど地域と一員として、又専門職として貢献するように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	潮風の現状を知って頂く中で地域の一員であることへの理解を深めていく。地域の中で潮風として協力させて頂ける事又協力をお願いしたいこと等を話し合い実践していく中でよりよい施設運営を目指し地域力となっていくように努めている。	2か月に1回の開催には出席者も多く、相互の関係を深め協力をお願いや、事業所が地域力になれる事の話し合いなどに努めている。	地域の理解を得る為の最も良い機会であるので身近な話題も多く、気軽なテーマを出し2か月に1回の開催の継続を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に書類提出等、連絡必要ある時はできる限り窓口へ出向くようにし、その際を利用して相談したり、アドバイスを頂いたりと交流の機会とし連携を深めるよう努めている。	申請代行などで行政担当者とは常日頃関わりを持ち、情報提供のやりとりなどで相互関係を深めている。認知症等の講師も引き付けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等、行動を制限する行為は指定基準で禁止されている事、その具体的例を挙げ確認している、一方で事故を未然に防ぐ為の見守りの方法を検討し対応している。玄関はオートロックではあるが、昼間は開け放したり、閉まらないように工夫し、施錠とならないようにしている。	身体拘束について全職員は理解しており、拘束しない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、法律の内容、課題、背景等を示し、虐待をしない介護の徹底を図っている。又入所者の介護リスク等を全体の問題として捉える事として介護ストレスが虐待に連鎖しないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状の中では、対象者はなく必要とはしていないが、しくみについては研修等で理解しており必要に応じて対応可能である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に至るまでのプロセスの中で、ご本人、ご家族の思い、ご希望等を十分に伺い、そのひとつづつに対してご理解頂けるように話し合いを深め、納得されてからの契約としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で、意見等を出して頂きやすいように声かけしている。又アンケート等で、思いを聞かせて頂いたりしている。潮風の方針を示し、同意を得る中で出された意見等の実現に向けての取り組みをしている。	家族の面会も多く、意見や要望を聴く機会を持っている。アンケート等で外部へ表す工夫や、日時を定めていた家族会を、出席しやすくする等要望にこたえている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で、意見交換を密にし、反映するようにしている。情報共有ノートを通じて、その時々々の意見や提案、困りごとについて日常的に活用している。	情報共有ノートを通じて意見提案、困りごと等その都度話し合い日常的に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員が力を合わせ、前向きに努力し日々業務にあたっている。苦手分野ある職員には得意とする職員がサポートし、克服に向けた働き掛けを行なう中で自信を積み上げ、自信のモチベーションを高めていけるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り外部研修を整えたいと願っているものの、現状では施設内での学習会が中心となっている。その都度必要に応じた資質向上に向けての学習会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ協議会、グループホーム協議会、介護福祉士会、認知症と在宅介護を考える会に所属し定期及び随時勉強会、研修会等に参加し資質の向上に努めている又、交流の機会としたり、連携を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆったりと傾聴する機会を設けていく中で、信頼関係を築いていくようにし、アセスメントした情報の中から、したい事、どう生活していきたいと 思っているか等を把握、生活の方法を話し合う 中で、本人の気持ちを引き出していくようにして いる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用に至った苦悩について、ゆったりと傾聴する中で不安に思っている事、求めていることを把握していく、又本音を吐き出して 頂けるような雰囲気を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	表面的な訴えにだけに捉われる事なく、話の中から問題点を把握するように心掛け、相談を傾聴する一方で、専門職としての見解を示し改善に向けての必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、家族のように自然に生活して頂いている。家事等、出来る事は協働で行い、共に仕事をする中で人生の先輩として教えて頂く事も多く、そのような機会を通して自信の回復、又生活力の喚起になるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の仕方を共有していく中で、ご家族の協力を得ながら支援している。入所者を中心とした交流の中で潮風を親戚のように捉えて頂いており、手作りのお菓子、お料理、季節の野菜等を頂く事も多く温かいご家族との関わりを実感している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居住場所が変わっただけでも、本人にとっては混乱を招く大きな要素ある為、他の環境についてはあえて変えないよう支援している。本人の様子、取り巻く環境等を勘案しながらではあるものの出来る限り入所までの関係は大切に努めている。	馴染みの友人や知人の訪問も多く、利用者と一緒に お茶をして頂き、これまでの関係が途切れないよう支援している。地域での行事(津まつり)にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者9名と職員が生活していく中で、相性等を配慮しながら、自然に振舞える居心地の良さを優先している。お互いの、良き話し相手、良き理解者とな得るよう側面的に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、入所されている施設を訪問したり、ご家族が近況報告に来られた機会等を通じて、常に交流している。又不安、心配事あれば相談に乗り、解消に向けて支援するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントした意向の中から、又ご家族の話の中から本人のしたい事、どう生活したいと思っているか等を把握し、本人にとって最適な方法を引き出していけるように努めている。	日常の関わりの中で利用者の思いをくみ取り、食材などその日食べたいものの買い物に出かけたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴及び本人、ご家族からの情報により今まで慣れ親しんだ暮らし方を把握するように心掛け、生活に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らし方に応じた日課の中で、本人が自信を持って生活できるよう、職員はさりげなく側面的に支援している。その日の気分、身体状況、希望を取り入れた生活が可能となるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント情報の中から又ご家族の話から本人のしたい事、どう生活したいかを把握し、職員は利用者の細かな状態に応じた支援方法の検討を図っている。十分に話し合いを深め本人らしい生活の実現に向けたプランニングを考案している。	アセスメント情報の中で家族と話し合い、職員からの課題や提案など検討し、十分話し合い、個々に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基本に捉える中で、リスク管理するための特記の記録、個々の状態に応じた細やかな援助方法を常備し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人がその人らしく暮らせる、個々に合わせたオンリーワン支援を工夫している。ご家族とも信頼関係強く、少人数というメリットを十分に活かした柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、子供会、保育園、民生委員、医療、福祉関係者との交流を通して社会性の充実を図り、入所者の安全、安心を確保する中で、楽しみの持てる生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の利用者、ご家族様の意向等を反映した上で、協力医(主治医)による定期往診及び24時間対応による随時の相談、往診体制をとっている。	協力医との関係も築かれ2週間に一度の往診もあり、24時間対応の適切な医療が受けられる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医院の看護師には日常的に相談している。医師の所見等を含めたアドバイスがその都度あり、とても安心感の持てる体制を構築している。又地域の看護師との交流も多く情報交換を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族、医師、看護師、ソーシャルワーカー等との情報交換を密にし、連携する中で入院中支援、及び退院に向けての最善の方法について検討の検討を重ね対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から終末期のあり方等については、ご家族の方、主治医との話し合いを重ねるに備えている。併行して個々の終末期のあり方についての情報を職員間で共有、最善なターミナルケアに向けてお意思統一を図っている。	契約時に家族・本人・関係者として話し合いを行い、終末期のありかたは全員共に共有している。これまで4名の看取りをし、家族から感謝の言葉も頂いている。他の利用者の不穏になる事の心配から葬儀の日には一日外出し、外食をする等工夫している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から、個々の身体状況等を把握し、予測される事態に対する準備をしている。一方で、あわてず的確な行動、適切な対応(応急処置等含む)が可能となるような学習を重ねている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日常生活の中で、災害時にいち早く避難できる方法について実践するようにしたり、マニュアルにて共有を図っている。運営推進会議等を利用して、現在の入所者の状況について地域の方に知って頂き、緊急時の協力をお願いしている。	日常生活の中で避難訓練はされている。運営推進会議で自治会長から自治会の役割は何かと問かけがあり、地域との協力体制は築かれている。利用者救出にあたり車いす対応の方の居室入口には車いすと書かれている。	災害はいつ発生するか分からず、特に夜間は職員数も少なく対応は難しい。普段から夜間の想定したり、地域と連携を取りながらの訓練をされることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー、プライド、人格の尊重については、十分職員間で意思統一を図り配慮した対応に努めている。	人格やプライドを傷つけないよう居室へ入る時には声かけをしたり、さりげない手助けをする事で利用者の満足感を引き出すためのサポートをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に寄り添いながら、その時々のお思いを共感、共有する中で、意思表示しやすいようさりげなく側面的な働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の過ごし方に応じた日課の中で、本人が自信を持って生活できるよう職員はさりげなく側面的な自立支援を工夫している。その日の身体状況気分、希望を取り入れた生活が可能となるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば買物に出掛ける等、個別に対応している。外出困難な方に対しては、身体の安楽を優先した方法を選びご家族の同意を得ながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養だけに捉われるのではなく食事が楽しみとなるよう、希望も取り入れ献立を考えたり、家庭にいるような雰囲気の中で職員も共に食事の時間を共有し共に準備、片付けなど家事を協働する中で生活力の喚起に向けた支援にも努めている。	利用者に何が食べたいかと問いかけ、食材の買い物に利用者とは出かけ、その日のメニューを作っている。テーブルふき、食事の下膳など利用者がしている。職員も同席し、同じ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー、栄養配分、水分量、好み等を勘案し、一日の摂取の目安を決めて対応している。安楽に、食事が楽しみと感じて頂けるよう、口腔機能、個々の好み等を配慮する中で、個別の対応を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の出来る方法で、毎食後には、必ず残渣物を除去、朝夕の歯磨き、うがい、義歯は洗浄し、口腔内の洗浄、定期的にミルトン消毒し口腔内の清潔保持に努めている。個々の状態に応じた方法で必要な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方、曖昧な方を問わず自然な排泄が可能となるように特別な事情がない限り、日中はトイレを使用している。排泄パターンに応じて定期的及び随時、気配、訴え等に応じて対応している。	全利用者はトイレでの排泄ができるよう、自立へ向けての支援をしている。リハパンツの利用者には職員が排泄時にそっとパットのみを取り替える支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便サイクルを確認した上で、センナ茶、ヨーグルト等整腸作用を考慮した飲食を提供したり、食事内容、水分摂取等についても配慮している。トイレでの排泄を基本とし、必要に応じて腹部マッサージ等、自然な排便リズムへの働き掛けに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、その人の性格、その日の気分、身体状況等を勘案しながら、その都度対応している。清潔保持、爽快感、希望に合わせて、ほぼ全員が毎日入浴している。	曜日・時間は定めず毎日入浴を希望する利用者もあり、個々に沿った支援をしている。湯船にも側面を開けるだけで歩行で入っていける浴槽になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の過ごし方に応じた日課の中で、思いの過ごし方がして頂けるよう、あえて無理な行事や日課は予定せず、その日に応じた過ごし方を優先している。個々の眠りに合わせた就寝、起床を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋にて薬効、服用方法について理解確認し認識を深めている。又日常生活の関わりの中で微妙な変化を察知する視点を持ち日々関わるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において出来る処、出来ない処、過去の生活の仕方等を個別に把握する中で、好み、能力に応じた家事を選び、自信の回復、生活力の喚起へと繋げている。個々の能力に応じた家事を分担し、行う事が利用者同士の大切な協働の場となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は、ほぼ毎日の日課になっている。外出は本人の希望に応じたり、季節を感じて頂く、手段のひとつとして捉え、天候、体調、その日の気分を十分配慮した上で個々に響く方法を選んで支援している。	お天気の良い日には全員が散歩に出かける。散歩・外出には家族と一緒に利用者を感じて頂く工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人御家族の意向に合わせ対応している。お小遣い程度を自身で管理し、買物で使用される方、使わないものの自身で所持しているだけで落ち着かれている方等、様々な状況の中で保管方法を見守る等、側面的な自立支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族、知人等との連携を密にし、側面的に働きかけたり、活発な交流が可能となるよう工夫し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、リビングはそれぞれ思い思いに過ごして頂けるよう配慮した空間作りを心掛けています。邪魔にならない音量でBGMを流し柔らかな癒しの空間となっている。玄関、居室には花、展示物等で、季節を感じて頂く機会となるよう努めている。	共有の居間は採光も良く、ソファでコーナーが作られ、テレビを見たり、雑談をしたり、利用者が落ち着ける空間作りがされている。新聞雑誌なども置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには利用者、職員、ご家族との交流が楽しめる空間があり、家族的な雰囲気の中で自由に寛いで頂いている。独りになりたい時は廊下のソファで過ごしたり、自室にてのんびりされたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだもの、こだわりのあるものを個別にしようとして頂いたおり、ご本人が違和感なく落ち着いた気持ちで生活して頂けるよう考慮している。	居室には家族との記念写真が飾られている。又、書道の趣味の利用者には筆を持つ事で筆圧の低下を抑える工夫をしている。居室入口には靴脱ぎ場を作り、居室内では履物を脱ぐ工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活すべての面において個々のできる処、できない処の詳細を把握する中で状態に応じた側面的な対応を工夫している。又安全面、残存能力を勘案した上で、個々の身体機能に応じた動線の確保等に努めている。		